

声上げれば政治は変わる

京都国政報告会 こくた氏、国会論戦・野党共闘語る

日本共産党京都府委員会主催の「国政報告会」が9日京都市内で行われ、こくた恵二党国対委員長・衆院議員、井上さとし、倉林明子両参院議員が参加。こくた氏が代表して国会情勢や野党共闘の状況について報告、井上・倉林氏が中間発言しました。

日本共産党の追及が光っている

こくた氏は国会の状況について「日本共産党の追及が光っており、安倍政権が追い込まれている」と強調。民間英語試験問題について「高校生の延期を要求する運動や野党の3回にわたる院内集会で延期を勝ち取った。国民が声を上げれば政治が変わることが示された」と強調しました。この問題では、「安倍首相の主宰する教育再生実行会議とその提言（2013年）が、大学入試制度の転換と民間企業の参入へ道を開いた」ことを指摘。「民間企業は営利・採算重視で、公正性が担保される保証はない」「『身の丈』発言で憲法26条の教育の機会均等を否定した萩生田文科相の辞任を重ねて求めてゆく」と力を込めました。



また、「安倍スキャンダルの最たるものは、『桜を見る会』の問題だ」と指摘。「田村智子参院議員と『しんぶん赤旗』の追及で、胸のすく論戦を行った。他党も絶賛し反響はとても大きい」とのべ、「首相が公然と税金を私物化した大問題で、一人でやれば公選法違反・買収だが、税金を使って公然とやった。誰が考えても異常な事態であり、野党が共同して一大問題として追及してゆく」と報告しました。

野党共闘 3つの驚天動地。野党連合政権が現実の課題に

野党共闘の問題では、「共闘の進化、発展の三つの驚天動地」として、「国会での共闘と選挙での共闘を軸に、市民と野党の共闘は大きく前に進んできた。大局的な確信を」と呼びかけ、この間の「3つの歴史的で画期的な出来事」を紹介しました。

- ①立憲・国民・社会保障の会などの国対委員長の招待による「志位委員長に外交問題を聞く会」の開催。「他党の会合で共産党がメインスピーカーをしたのは初めて。尖閣諸島の共産党の見解をたっぷり講演し、中国の大国主義・覇権主義などを発言した」と報告しました。
- ②「高知県知事選挙は、共産党員の松本けんじ氏を野党統一候補として擁立し、知事選で一つひとつ勝利して、安倍政権打倒へとつなげていこうと野党が共同してたたかっている」と報告。「選挙対策本部長は広田一氏。決起集会に保守政治家の中村喜四郎氏が参加し、保守層へもウイングを広げている。本気で勝ちに行く構えになりつつある」と話しました。
- ③保守政治家・中村喜四郎氏の「日曜版インタビュー」への登場を紹介。最後に、「野党連合政権がスロークロウの段階から、実際に実現するという現実的課題になってきた」と強調しました。

近畿いっせい宣伝

民間英語試験 高校生もピラ受け取り

近畿いっせい宣伝が8日に行われ、473カ所で17.6%の支部、1859人が2万4662枚のピラを配布しました。どこでも受け取りがよく、滋賀では「高校生も声を上げ、大学の英語の入試が延期になりました」と呼びかけると高校生もピラを取ってくれました。大阪府中央区では宣伝紙10部活用。「父が読んでいた」「初めて見た」というサラリーマンも。募金2260円が寄せられました。

近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 30(2019.11.12)